



## ESG投資とSRI、SDGsの違いと関係

ここではESG投資とSRI(Socially Responsible Investment)、SDGs(Sustainable Development Goals)について、それぞれの違いと関係を、これまでの内容を踏まえつつ整理していきましょう。

### ESG投資とSRI

これまでの内容を踏まえ図表1に、ESG投資、SRI(Socially Responsible Investment)、SDGs(Sustainable Development Goals)それぞれのポイントをまとめました。まずは、ESG投資とSRIの違いと関係について整理していきましょう。

1920年代に始まったと言われるSRIが長らく責任投資の主流を占めてきましたが、2006年に国連のアナン事務総長(当時)が、機関投資家に対し、ESGを投資プロセスに組み入れる「責任投資原則(PRI:Principles for Responsible Investment)」を提唱して以降、ESG投資の考え方が徐々に浸透し始めました。

SRIがネガティブ・スクリーニングから始まり、ポジティブ・スクリーニングへと広がりを見せていったことからわかるように、SRIとESG投資の基本的な考え方は同じです。しかし、SRIは、宗教的な価値観からの出自のため、特定の投資家のみが行う投資手法と考えられる傾向がありました。

一方、ESGは、私たちの社会全体を取り巻く問題・課題であり、特定の人たちだけでなく、私たち全てに関わる問題です。したがって、ESG投資は全ての投資に適応されるべきであると考えられており、SRI以上に広く浸透することが期待されています。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

### 図表1: ESG投資、SRI、SDGsそれぞれのポイント

#### ESG投資

- ESGとは、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の英語の頭文字を合わせた言葉
- ESG投資とは、投資プロセスにおいて、利益やキャッシュフロー等の財務情報に加え、非財務情報であるESG要素を考慮したもの
- 2006年に国連のアナン事務総長(当時)が、機関投資家に対し、ESGを投資プロセスに組み入れる「責任投資原則(PRI:Principles for Responsible Investment)」を提唱

#### SRI

- SRIとは、Socially Responsible Investmentの略で、社会的責任投資のこと
- 国連による2006年のPRI提唱以前はSRIが責任投資の主流
- SRIの始まりは1920年代と言われており、米国においてキリスト教的倫理の観点から武器、ギャンブル、タバコ、アルコール等に関わる企業へは投資しないというネガティブ・スクリーニングを開始
- 2000年代に入ると社会問題への対応に優れた企業を選んで投資するポジティブ・スクリーニングが拡大

#### SDGs

- SDGsとは、Sustainable Development Goalsの略で、持続可能な開発目標のこと
- 2015年に国連が定めた国際目標: 2030年までに「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す
- 17の目標と169の小目標で構成
- 各国政府、地方自治体、企業のみならず、一人ひとりに至るまですべてのひとの行動が求められる点が特徴

マーケットの見方 ESG投資編(4) <ESG投資とSRI、SDGsの違いと関係>

ESG投資とSDGs

次に、ESG投資とSDGsの違いと関係について整理していきましょう。ESG投資は、投資を通じてESGの課題の解決を促し、それによって投資家は投資機会や投資リターンを獲得することが期待されます。

SDGsとは、2015年に国連が定めた、2016年から2030年までに、あらゆる貧困に終止符を打ち、持続可能でよりよい社会を目指す国際目標です。17の目標と169の小目標で構成されています。SDGsは政府や個人のみならず、民間企業の積極的な参加も求めています。例えば、経団連は企業行動憲章を改定し、会員企業に対してSDGsの達成に向けて行動するように求めています。

SDGsは17の目標をクリアすることで、持続可能でよりよい社会の実現を目指すものであり、直接的に投資と結びついてはなりません。しかし、企業の側から見れば、課題解決がビジネスチャンスにつながる可能性があります。例えば、社会がSDGsの目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の達成のためにクリーンエネルギーの導入を進めることで、クリーンエネルギー市場に大きなビジネスチャンスが生まれる可能性があります。

ESGとSDGsに共通していることは、持続可能な社会の実現を目指している点であり、これはよりよい未来からリターンを得ようとすると言えます。

図表2: ESG投資とSDGsの関係



出所: PRI、国連のデータを使用しピクテ投信投資顧問作成